

令和7年度 燕市一般会計（普通会計）決算の概要

- 令和7年度の一般会計（普通会計）決算は、歳入総額が前年度比55億7,161万7千円増の540億9,611万3千円、歳出総額が57億6,805万4千円増の518億6,983万8千円となりました。形式収支は22億2,627万5千円、形式収支から翌年度繰越財源を控除した実質収支は、前年度比2億7,602万6千円減の19億7,877万8千円となっています。
- また、実質収支の増減を表す単年度収支から財政調整基金の積立・取崩を加減した実質単年度収支は、前年度比3億6,276万1千円増の7億7,068万8千円の黒字となりました。
- この結果、財政調整基金残高は、前年度末から10億4,001万4千円増の49億672万8千円となっています。

区 分	令和7年度	令和6年度	比 較	歳入歳出の主な増減内訳
歳入総額 (a)	540億9,611万3千円	485億2,449万6千円	+55億7,161万7千円	【歳入】 市 税 + 6億 873万7千円 地方交付税 + 7億5,099万1千円 国庫支出金 +17億9,919万2千円 地方特例交付金 ▲ 3億5,903万5千円 繰 入 金 + 5億7,995万7千円 繰 越 金 ▲ 4億7,424万5千円 市 債 +26億5,990万円 【歳出】 人 件 費 + 4億9,729万8千円 投資的経費 +34億6,102万4千円 物 件 費 + 4億4,497万8千円 公 債 費 + 1億4,411万1千円 積 立 金 + 3億4,598万4千円
歳出総額 (b)	518億6,983万8千円	461億 178万4千円	+57億6,805万4千円	
形式収支(a)-(b) (c)	22億2,627万5千円	24億2,271万2千円	▲ 1億9,643万7千円	
翌年度繰越財源 (d)	2億4,749万7千円	1億6,790万8千円	+ 7,958万9千円	
実質収支(繰越金)(c)-(d) (e)	19億7,877万8千円	22億5,480万4千円	▲ 2億7,602万6千円	
単年度収支 (f)	▲2億7,602万6千円	▲2億1,129万8千円	▲ 6,472万8千円	
積立金+繰上償還 (g)	46億9,746万5千円	42億4,201万2千円	+ 4億5,545万3千円	
積立金取崩額 (h)	36億5,075万1千円	36億2,278万7千円	+ 2,796万4千円	
実質単年度収支(f)+(g)-(h) (i)	7億7,068万8千円	4億 792万7千円	+ 3億6,276万1千円	
財政調整基金残高	49億 672万8千円	38億6,671万4千円	+10億4,001万4千円	

【令和7年度決算のポイント】

- 3つの人口戦略を柱に、急速な人口減少やDX・脱炭素といった本市を取り巻く社会潮流への対応に重点的に取り組む一方、物価高騰による物件費の増や人件費の増、さらに、分水公民館改修事業や小池中学校長寿命化改良事業、燕市屋内こども遊戯施設建設事業、B&G海洋センター移転改築事業等の多くの建設事業を実施したことによる投資的経費の増などにより、合併後最大の決算規模となりました。（1位：R7、2位：R2、3位：R6）
- 物件費や人件費、投資的経費等が大きく増となったことなどにより、単年度収支は赤字となりましたが、普通交付税の追加交付や経費節減に努めたことなどで、財政調整基金への積立額が増えたことから、実質単年度収支は黒字となりました。

【令和8年度以降の財政動向】

- 物価高や金利上昇、中東情勢の緊迫化による企業活動への影響など、本市の財政運営を取り巻く環境に不透明感がある中、子育て施策の充実を含む人口減少対策をはじめ、地域社会のDX、脱炭素社会の推進など、社会環境の急激な変化に対応した取組が必要であり、これに伴う歳出増が見込まれます。
- 財政調整基金残高は、令和8年度当初予算等の財源として活用したことにより18億6,021万6千円となりましたが、9月補正予算において令和7年度繰越金等を積み戻した結果、29億3,127万6千円となりました。引き続き、社会経済動向を注視するとともに、行財政改革及び自主財源確保に努めてまいります。